

誰もがマイノリティでマジョリティ
益田市立中西中学校 二年 岡崎信香

普通とは何か。私は女性として生まれたが、周りから女として扱われることに違和感を持って生きている。学校で男女分けされるたびに、「あなたは人間じゃない」と言われているような感覚になる。男子の方に行くと、何でこっち来たん？という顔をされ、女子の方に行くと、同性の友達感覚で接されているような気がして、自分を否定されている感覚になる。違和感は苦痛へと変わっていった。中学一年の時、弁論大会で自分の性について話してみんな私の苦しみを知っているはずなのに。それでも周りから女に見えてしまう自分が悔しくて嫌いだ。男女分けの時、気にかけて声をかけてくれる先生もいる。しかしその気遣いさえも、普通じゃないからみんなと同じように何も考えず分かれることができないんだ、とネガティブな考えになってしまうこともある。本当はもっと前向きに生きていきたいのに。

どう扱ったらいいのか分からない。こう思われている私は人間関係でとても悩んだ。ある日、私と仲良くしてくれる人がLGBTQへの差別発言をしているのを聞いた。認めてもらえていたんだと思っていたのに、私の性のことを分かっていなかったのかと気付いた。もしかすると、自分が親友だと思っている人も私のことを女だと思っているんじゃないだろうか。これからも人と仲良くなった時、「この人もきっと…」と疑いながら生きていくのだろうか。信じるのが怖くなった。無意識な差別発言に傷付けられることが多々あり、一日を乗り越えるのが精一杯な日々。自分は人と違うから上手くいかなくて苦しむのが当たり前なんだ。普通に生まれたかった。私は体の性と性自認が一致している人が羨ましくて仕方がない。何で自分だけこんなに苦しまないといけないのか。

世界中に、私と同じような性的少数者が少なくとも約五億人いる。カミングアウトしている人はその中の約一億人。誰にも言えずに悩んでいる人がものすごくたくさんいる。私のように、カミングアウトしても悩む人も多い。世界でLGBTQとして自分らしく生きている人は、一体どれくらいいるのだろうか。私は両親にカミングアウトして、受け入れてもらった。LGBTQの人の中には、生まれた時から支えてもらった親にさえ、「うちの子じゃない」「育て方を間違えた」などと言われる人もいる。親を信じて決死の覚悟でカミングアウトしたのに、そんなことを言われたらどんな気持ちになるか。想像するのも辛い。私は家族の支えがあるから、辛い時も前を向けたけどこの人たちの中には、居場所がなくて生きるのが辛いと感じる人がたくさんいるだろう。

私の知り合いの孫が自死した。彼女はトランス女性だった。私はその人と会って話したことがないから、どんな思いで何が辛かったのかは分からない。しかし、家族が書いた文章には「息子」「長男」という書き方を何度もされていた。カミングアウトしていたのに、性自認が女であることを認めてもらえていなかったのかもしれない。私はこの出来事を知って、胸が苦しくなった。もっと何かできることがあったんじゃないのか。身近な人の言葉や社会の配慮のなさが、当事者を傷付けるということをもっと分かってほしい。

私が好きな言葉は、「誰もがマイノリティでマジョリティ」人はみんな違って誰もが特別で普通。いつかこの世界中の人たちがこの言葉のように、差別なく認め合えるようになってほしい。今の社会は、そんな世界になるにはほど遠いと思う。だから、小さなことから変えていきたい。私はもうネガティブな考えにならない。辛いことがあっても自分らしく堂々としていればいい。そうすれば、きっとありのままの自分を認めてくれる人に出会えると信じて。そして誰もが自分を隠さず、自分らしく生きられる世界に繋げていくことが、LGBTQとして生きる私にできることだ。